

第14回陸側遮水壁タスクフォース議事概要

日時：平成27年3月3日（火）10:00～12:00

場所：経済産業省別館5階509共用会議室

出席者：大西主査、赤川委員、石川委員、藤田委員、丸井委員、西垣委員、井尻委員
代理、東京電力、鹿島建設、
糟谷対策監、吉田審議官、新川室長、江口対策官、豊口企画官、水野調整官、
菅野補佐

議事概要：

議題1. 陸側遮水壁の工事の進捗について鹿島建設より説明。【資料1】

<主なコメント>

●陸側遮水壁（山側）の先行凍結を行う際、バルブ等によって目的の凍結管内に冷却材を送れるようになっているのか。

→その通り。

議題2. 陸側遮水壁に関する規制委員会の認可状況について東京電力より説明。

【資料2】

<主なコメント>

●未申請の貫通箇所の施工についてはいつ頃申請するのか。

→本日の議論を踏まえ、速やかに申請する。

議題3. 陸側遮水壁（海側）の段階的な施工について鹿島建設より説明【資料3】

<主なコメント>

●海水配管トレンチの貫通施工に要する期間が、1～4号機建屋への地下水流入量に与える影響について比較して整理すると良い。

●海側遮水壁の閉合時期やサブドレンからの汲みあげなどの他の工程も一緒に示してほしい。

●海水配管トレンチを貫通させる場合はどのような工法で行うのか。

→他の埋設管を貫通する場合と同様にマルチステップ工法で行うことを考えている。

●海水配管トレンチの下部を凍結させた場合、トレンチの構造物に影響はないか。

→基本的に影響はない。

●海水配管トレンチと透水層（主に互層）の接点の地下水流速について、確認できる

ようにしてほしい。

- 1～4号機の原子炉建屋またはタービン建屋間で水の流れはあるのか。
→3、4号機の建屋間については建屋内の水位を見る限り、連通していると考えている。ただし、号機毎に水の流れやすさ、流れにくさに違いはある。

- 陸側遮水壁（海側）に対する規制庁の懸念は何か。
→サブドレンの海側を稼働すれば十分ではないかという点と、施工における被ばく線量の点。陸側遮水壁（海側）のメリットについて説明を要求されている。
→次回以降に検討結果を報告したい。

議題4. 陸側遮水壁（山側）凍結開始後の当面の水位管理について東京電力より説明。

【資料4】

<主なコメント>

- フェーシングを行うと、不圧地下水位の減圧が局所的に生じる可能性がある。水位計ではなく、間隙水圧計を用いて計測してはどうか。
→検討したい。

議題5. 建屋滞留水処理の進め方と課題について東京電力より説明。【資料5】

<主なコメント>

- 今後、メンバーを追加して検討を進める。

以上